

令和4年度第6回学校魅力強化委員会議事録

開催日	令和5年2月21日(火) 於 白石高校普通科キャンパス多目的室・会議室
開催時間	15:00~17:00
出席者数	委員9名 事務局4名 教育振興課1名 アドバイザー1名
出席者氏名	委員: 江口、川崎、岩吉、筒井、中川、平井、諸石、門田、溝口 事務局: 平山、北村、鶴田、野見山 教育振興課: 細國 アドバイザー: 門脇
会議次第	1 「総合的な探究の時間」成果発表会の第3部を参観 2 議 事
議 事	<p>(1) 学校評価結果について</p> <p>学校より、別紙を用いて学校評価結果についての説明後、評価と意見を各委員より提出してもらった。後日まとめたものをメールで送付し承認してもらう旨を伝える。</p> <p>(2) 「総合的な探究の時間」成果発表会について</p> <p><各委員より></p> <p>○普段の生活の中で「なぜかな?」とか「不思議だなと思った」ことについての発言があればもっと良かった。そのような感性を大事にしたい。かなり壮大な問題の解決に向けたタイトルだったので、なかなか自分に結び付けることが難しかったのかなと思う。発表者自身が、楽しそうだったり、熱が入っているとずっと良いと思う。週1回の時間では少ないので、学校の外にまとめて出る時間を長期休みなど利用して設定し、実践する環境を与えてあげないといけないのかなと感じた。</p> <p>○探求のテーマは自分で考えるのか? 高校生なのに、とてもすごい内容だった。ただ規模が大きすぎて自分事に置き換えることがむずかしいため、調べて発表して終わるということになっている傾向がある。もっと分析までできて、自分たちにできることは何かというところまで行ければもっと良かったと感じた。</p> <p>○全て参考になる発表だった。白石町の地域活性化には耳が痛い話だった。連携ができていないなど自分たちも課題として意識していきたい。高校生とは思えないレベルのプレゼンだった。</p> <p>○保護者目線としては、ただただ感心した。しっかり自分たちで調べて、いろいろなところから文献を見つけているところなどに努力が見えた。自分たちで調べたことなので自信をもって発表出来ていたことに感動した。</p> <p>○1年生より2年生のほうが、視点を広く持っているし、まとめも上手だった課題としては自分で最後どうアプローチをしていくかの内容が欲しかった。良いところ悪いところを洗い出していくことで次につなげていくことが大事。いろいろな意見を聞くことにより一歩前進していけるのではないかな。</p> <p>○普段の授業や部活動がある中、よく調べて勉強をしていたと感じた。今の生徒には発表する力が必要とされているのだなと思った。今までは社会人になってからでよかったものが少子化の影響もあり、今は高校時代に課題の設定やプレゼンの仕方などを学んでから社会に出</p>

てきてほしいと思われている。今は大学の入試などでもプレゼン力が求められている。

○テーマが大きかったが、逆に地域課題とか社会課題などの観点からではなく高校生自身が感じている社会に対しての課題がどんなものなのかというの聞いてみたかった。普段の生活の中で「ここは不便だな」「ここはもっとよくできないかな」など、自分が実際困っていることであれば自分事として考えやすいのではないかと思った。そのためには週1時間ではなかなか大変だと思うので2か月に1回などまとまった時間で学校外へ出て調べる時間などがあっても良いのではと感じた。

○20年前白石高校生だったのですが、当時このような授業があれば何をテーマにしたかなと考えた。白石町の課題を取り上げていた発表の生徒さんは、私のお店に取材に来てくれた生徒さんでした。その時は、その取材が、どのようなことに使用されるか知らなかったが、今回、このように形になったものを見ることが出来てとてもよかった。生徒さんが発信してくれている地域のInstagramはその後はどうなっていくのか、誰かが引き継いでもらえるのか気になっている。

○高校生が求められる資質が変わってきている。生徒も地域のことをちゃんと見ているのだなと感じた。

(3) 最後に

<会長より>

○前回学校側から、総合的な探究の時間の中で地域の先生方に講師をお願いするなどの具体的な案が出た。今回の「総合的な探究の時間」の発表会で多く扱われていた壮大なテーマではなく、地域の先生方に学ぶとなるともっと地域のことが課題に取り入れやすくなるのではないかと思うので、ぜひ進めていただければと思う。そして、それが白石高校らしい取り組みになれば、来年度に続く良い取り組みになるのではないかと思う。

○今年度SAGAコラボレーション・スクールを1年間取り組むことになり、コーディネーターも配属できたが、この1年間で出来たこととこれからやりたいこと、目指したいことを明確に示してほしい。学校側からですが、教育振興課からもお願いします。白石高校はどのようなところを目指すのか、コラボレーション・スクールとはどういうものなのか、まだまだ道半ばだが、再来年には、このようなものが生まれ始めましたといえるようになりたい。地域と白石高校が学びという難しいテーマの中で何ができるのか、それがどう魅力につながるのかということとはあきらめずに追い求めてほしい。校長先生も副校長先生もお忙しいと思いますし、教育委員会も頭の痛いところではあるとは思いますが、できたことやりたいことを新しい年度にむけてまとめてもらいたい。それがコーディネーターの今後の指針や新しい年度に呼ばれる魅力強化委員のためにもなると思うのでぜひよろしくお願いします。きっとできたこともたくさんあると思う。さくらむすびさんとのてんぺ料理教室や平井さんの子供を通しての学校との関りなど、出来たことはコラボレーション・スクールがあったからなのかどうかは定かではないが、一つだけ言えるのは白石高校が地域に対して手を差し伸べていただいたから出来たというのが大きくあると思うので、今後も積極的に手を差し伸べていただきたいと思う。地域で出来ることはぜひ協力させていただきます。

<主幹より>

○今後の取り組みについて、今まで商業科では、3年生の課題研究だけだったが、総合的な探究の時間で1年生2年生も地域との関りを深めていけたらと思っている。課題に関しても自分で選ぶ段階の前に、地域の方々と一緒に活動する機会があることもよいのではと考えているので、来年度に向けて、コーディネーターに地域の方とのつながりを作ってもらっているとある。体験を通して、自分事としてとらえながら課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる生徒を育てていきたいので、今後ともご協力をお願いしたい。

<門脇アドバイザーより>

○「総合的な探究の時間」の成果発表会について

課題解決プロジェクトを企画立案する営みを通して、探究的な学びを作っていくということで、生徒たちにとっては二つの側面があった。生徒たちが具体的で身近なきっかけや体験を通して、課題を自分だけのものではなく一般化しているところがすごくよかったと感じた。一般化しすぎているので、そこに地域連携を入れ地域レベルぐらいに一般化するというプロセスを経ると、より地域連携がしやすい課題解決のプロジェクトになっていくのかなと感じた。課題解決に向けての行動を実践できたほうが良いという意見が多かったが、一生懸命実践するというのは時間がかかるので、その課題に携わっている方に話を聞きに行くだけでも発表に深みが増すのではないかと感じた。話を聞き自分の考えに気づくこともあるので、課題解決のプロジェクトにより深みが増していくのではないかと思った。

○コラボレーション・スクールについて

学校魅力化にもいろいろなやり方があるが、この SAGA コラボレーション・スクールは地域との協働や話し合いの場をどれだけ作れたかに重点を置いている。その中で白石高校として1年間でできたことは、みなさんの都合を合わせながら学校魅力強化委員会を6回開催したこと。そのうえで次年度には、皆さんの思いをより重ねながらより議論を深められたら良いのかなと感じた。そのために学校や地域が求める協働の活動のすり合わせを行い、協働の体制と協働の活動を推進していくということが SAGA コラボレーション・スクールらしい魅力の形なのかなと思う。1年間ありがとうございました。

<校長より>

○1年間ありがとうございました。この委員会で様々なご意見をいただきながら、新設の学校として、両キャンパスの歴史をどう引き継いでいくのかということについて、参考になった。本年度はあまり新しいことには取組まず、どちらかという分析に時間をかけ少しずつ課題が見えてきました。新しい学校の在り方について考える期間をいただけたので、2年目以降は今年の見解をベースに新しい学校を作り上げていきたいと考えている。今後ともよろしくをお願いします。

事後 措置	朝礼時報告	○ 職員会議 にて報告	校内 LAN にて広報	職員向け配布物機を利用し て広報する。
	その他 ()			